

地元消防団第四分団に所属していた私は、会社から帰宅し早々に法被に着替え長靴を履き、分団の屯所に向かいました。屯所に向かう途中にある承知川はすでに増水し、流れも勢いを増して、上流から流れてきた大きな石の転がる音が「ゴトゴトゴトッ！」と不気味に鳴り響

平成十八年七月十八日夜、数日降り続く大雨の影響により町内を流れる河川の水位が上昇し、町の消防団にも招集がかかりました。この雨は長野県では、岡谷市を中心とした諏訪地方全体で、死者・行方不明者十一名、床上浸水千四十三棟を出す被害をもたらすこととなりました。



天災は忘れたころにやって来る ～体験を伝えることの大切さ～

南四王 宮坂 進

いていました。

雨は止む気配もなく、日付が十九日に変わる頃から、承知川はさらに水位の上昇を続けました。無線機からは砥川の切迫した状況も伝わり、土嚢作りも急ピッチで行われ、土場では役場の職員の方が土嚢を作り、それを消防車に積み込み、各公民館などに運搬しました。深夜に続く活動で、眠さや疲れも感じる余裕はありませんでしたが、それでもきつと朝になれば状況も収束していくだろうと、そんなふうな思っていました。

ところが、承知川の水位は確実に上昇を続け、十九日明け方にはついに承知川が溢れ出し、瞬く間に川沿いの住宅への浸水がはじまりました。すぐに付近の住民に知らせるため、消防車のサイレンを鳴らし、流域の住

でも訓練を行っており、この時は土嚢が大変役に立ちました。道路に水が流れないように並べたり、住宅に水が入らないよう、玄関に土嚢を運び積んだりしました。時には腰まで水がつかっている中を、両手に土嚢を持ちつつ、助けを求めている住宅まで運んだりしました。

管内の浸水した住宅で暮らす夫婦が取り残されているとの連絡が入りました。現場に向かうと、すでにその家の女性を近所の人が背負い、窓から梯子を伝って助け出す姿を見て、災害時には自治会や近所同士の連携や助け合いがとても大切なのだと感じました。

承知川から溢れた大量の水と土砂は線路にも流れ込み、少し離れた北四王ガード下まで水没させ、三分団管内にも大きな被害をもたらしました。また、諏訪湖畔一帯も浸水し、下半身を水につけて土嚢を運びました。



21日午後1時

氾濫のつめ跡

東日本大震災も、タイの洪水も、私たちの想像や常識を超え、大きな被害をもたらしました。「天災は忘れたころにやって来る」
今を生きる私たちが、自らの体験を子供たちや次の世代に伝えていくことが、またいつかは起こるかも知れない水害の被害を、少しでも小さくしていけることにつながるのかも知れないと感じています。

道が川になっている！

～防災に対する協力意識をもつ～

西四王 小笠原 正浩



平成十八年七月、梅雨前線の停滞で大量の雨が降り、諏訪地方に豪雨災害をもたらしたのは記憶に新しいと思います。下諏訪町に三十年以上住んでいます。が、これほどの豪雨災害は初めてでした。

その日の朝は、消防団の呼び出しの連絡で目が覚めました。まだまわりが暗い中、急ぎ法被に着替え、近くの屯所に向かいましたが、家を出て数十秒で驚きの光景が目に入ってきたのです。「道が川になっていて！」これが第一印象でした。古川沿いの道路に濁流が流れていたのです。どこで溢れた水が流れて

いるのかは、分かりませんでした。屯所に到着したら、町内あちこちで河川が溢れ、冠水し、土石流で通行止めの箇所があるという情報が入ってきました。とにかく大変な事が起きているのだという事を思いつつ、消防団活動を始めました。

自分が住んでいる四王でも、あちこちで水害が発生していました。承知川が氾濫しJR線路でせき止められ、そこで溢れた濁流が踏み切りや線路内を流れ、東・北四王一帯の住宅に被害を与えました。また、諏訪湖周辺では水位の上昇の為、古川などが徐々に溢れだし、あちこちで民家が冠水するという状態になりました。

消防団の活動は消火、防火の作業だけではなく、水害に対し

第三分団にある他の屯所地域においても、水害が起きていました。大社通り四ツ角屯所の地域では、山から流れてくる濁流から店を守るために、御田町商店街の道沿いに土嚢を積み上げる作業を行い、赤砂屯所のある地域では、一級河川の砥川の土手が崩れ、氾濫していないか、常に砥川の警戒を行っていました。

この時の水害を通して感じた



承知川の氾濫

事は、このような広範囲の災害の中では、消防団だけの力では手が足りないと言う事でした。役場の職員の方が土嚢を作り、消防団で必要な場所まで持つて行く、これだけで精一杯でした。災害はいつ起こるかわかりません。また防ぎようがなく、容赦なくやって来ます。そのようなときには、消防団だけでなく、下諏訪町に住んでいる人々がすすんで防災に対する協力意識を持ち、互いに助け合い、力を合せて対処することが大切だと思えました。